

地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」

2023年3月24日発行

第32号 ぴぼっと 南光台通信



VOL.0032

発行： 社会福祉法人つどいの家地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」
責任者： 三浦 郁美（管理者）
住所： 981-8003 仙台市泉区南光台 3丁目 1-24
連絡先： TEL 022-779-7341 FAX 022-779-7342



年度末のご挨拶



暖かい日が多くなり、過ごしやすい季節になってきました。今年は花粉の量が非常に多いと言われていることもあり、マスク生活が定着していてもムズムズして、くしゃみが出てしまいます。花粉症の方にとっては大変な季節と思いますが、これも春の訪れを実感する1つでしょうか。

最近は新型コロナウイルス感染症も落ち着き、恒例行事も各方面で執り行われるようになってきました。この春に学校を卒業される利用者の方からは、「入学式は中止だったけれど、卒業式は大きな会場にみんなで集まって卒業を祝うことができる」と嬉しそうに報告をくださいました。また、ヘルパーとの外出をしばらく自粛していた方からも、久しぶりにヘルパーと外出をしてとても楽しかったとコメントをいただき、私たち支援者は、利用者の方々がやりたいことや楽しみを見つけて体験し、心も体も健やかに過ごせるようにサポートする役割があると再認識しました。これからも利用者のみなさんと一緒に「楽しみ探し」していきます。

スポーツ観戦も声を出しての応援が解禁となりつつあり、宮城にもサッカーや野球などのスポーツチームが多くありますので、以前のような盛り上がりに戻ってきそうですね。

マスク着用も個人の判断に委ねるとの方針が出され、急に任せられても…と少々困るところではありますが、新型コロナウイルス感染症が消えたわけでも、軽症で済むようになったわけでもありませんので、油断せずにこれまで通りの感染症対策を継続しながら、事業の活動の幅を広げていきたいと思っています。

今年度は地域の方から備品などのご寄付をいただいたり、事業所前の公園清掃の際には町内からも参加して下さったりと、当事業所を気に掛けていただいていることに大変嬉しい気持ちになりました。心から感謝いたします。これからも地域に開けた事業所を目指していきたいと思っています。

管理者：三浦郁美

すてっぴ・はうす 新職員紹介



1/1 より、常勤職員として、吉田泰延（よしだたいの）が仲間入りしました。どうぞよろしくお願いいたします！

がんばりま〜す！
えいえいお〜！！

Q. つどいの家を選んだきっかけは？

A. 以前は精神的な障害のある方の支援をする仕事をしていました。この仕事は、ペットを通じた知り合いに紹介してもらいました。

Q. 好きなこと、趣味は何ですか？

A. 音楽を聴くこと！ペットと一緒に家事の合間や移動の際に聞きます。曲はモーツァルトや Aimer、ONE OK ROCK などが好きです！

Q. 意気込みをお願いします！

A. 何もかも未経験で分からない事ばかりで回りの方々に助けていただき約2か月が経ちました。ご迷惑をおかけしてばかりですが、この仕事を通じて地域との密着等いろいろお勉強させていただき、私自身も向上していけるよう焦らず頑張ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



福祉フォーラムに参加して



1/27、仙台市知的障害者支援団体協議会主催の、福祉フォーラムに参加し、仙台市内の社会福祉法人職員が県外施設へ視察研修に行った際の報告を聞いてきました。長野方面研修の報告では、高水福祉会を視察し、その中でも「データに基づいた根拠」を活かした支援を行っているという点が印象的でした。日頃から丁寧な記録をとり情報収集をしていくことで、より根拠のある支援に結びついていくのだろうかあと考えました。神奈川方面研修の報告では、神奈川共同会の津久井やまゆり園の再生が取り上げられていました。「意思決定支援」がキーワードとなっていて、利用者さんの意思を汲み取る、施設内で完結させないという基本的だけど意外と難しいと思える部分を重点的に考えているところが印象的でした。



今年の4月で、つどいの家に入職し、社会人になって一年が経ちます。まだまだ学ぶべきことが山積みですが、今までの利用者さんとのかかわりを振り返り、今回の研修報告からヒントを得ながらこれからのかかわりに活かしていきたいと思います。

(すてっぷ・はうす 横山)

仙台市知的障害者関係団体連絡協議会福祉講座

2/9、仙台市知的障害者関係団体連絡協議会主催の福祉講座に参加してきました。講師は社会福祉法人 やまびこの里 志賀利一氏で、「強度行動障害のある人を地域で支えるには」というテーマの講義でした。

まず、日本の障害福祉と自閉症の理解について、たどってきたプロセスから始まり、なぜ強度行動障害支援者養成研修ができたのか、強度行動障害のある人には、どのような支援が適しているのか、お話しいただきました。

その中で私が心に刺さったのは志賀氏の「虐待や本人の意思を無視した支援など、やってはいけない支援はあるのに、適した支援がない。」という言葉でした。私が支援に携わる中で、やってはいけない支援の話は何度も何度も耳にしてきましたが、適した支援についての話は、あまり聞いたことはありません。また、強度行動障害支援者養成研修の受講者は何人もいますが、実際には、受けたら受けっぱなしになり、研修で教わった考え方や支援方法を実践できていないのが現状です。チームアプローチとよく言われますが、研修で教わったことをみんなで考え、取り入れ、挑戦し、振り返り、また改善していけば、強度行動障害のある人が生活しやすくなるはずですが、なぜ実践できていないのでしょうか。まずは、この現状を分析していくとともに、できっこないをやらなくちゃ精神で強度行動障害のある人への支援に取り組んでいきます。



(ぺんたす 小原)

★視察研修に行ってきました



2月18(土)~19日(日)の二日間、大阪にある「NPO 法人み・らいず2」の事業所見学に行ってきました。

「NPO 法人み・らいず2」は、大学生ガイドヘルパーサークルから始まり、2001年に設立した法人で、しょうがいの有無に関係なく、誰もが自分らしく暮らせる当たり前の社会を実現することを目指して、しょうがいのある人、発達しょうがいの診断を受けたこども、不登校のこども、ニートや引きこもりの若者など地域のニーズに沿った様々な支援に取り組んでいる法人です。学生が積極的に活動するところが特徴で、法人全体で150~200名の学生がボランティアやガイドヘルパーとして活動しているとの事でした。



ホームページ

本研修では、ガイドヘルパーの集まりを見学させていただき、学生ボランティアの運営を行う学生とお話しをさせていただきました。また、みらい食堂(こども食堂)、知的ガイドヘルパー養成講座も見学させていただきました。

研修を通して驚いたのは、活動している学生は福祉を学ぶ学生ばかりではないことでした。例えば、栄養を学ぶ学生が子ども食堂で献立を考えたり、教育を学ぶ学生がランメイト(学びづらさをかかえるお子様のための塾)の先生として勉強を教えたりと、ボランティア活動を通して学生自身が経験を積むことができる、活躍できるそんな場所になっていました。様々なボランティア活動を行なう中でガイドヘルパーの活動に繋がる学生も多いとのことでした。将来なりたい職業も福祉には限らず様々で、「み・らいず2」を卒業した学生の中には広告関係や行政に関わるような仕事をしている方もいるとの事でした。「み・らいず2」で活動した学生が様々な分野で社会に出て行くことで、少しずつ社会のしょうがいに対する理解が深まっていくというサイクルも生まれていて、とても素敵な取り組みだなあと感じました。



(ぺんたす 長沢)

★ヘルプ事業チーフより

いつも「ぺんたす」をご利用いただきありがとうございます。

以前より、登録ヘルパー不足や財務的な課題はありますが、できる限り多くの利用者のご希望に応えられるよう事業運営をしております。

しかし、移動支援(外出支援)については利用者のご希望に対し、提供率が低くなっており、心苦しい限りです。移動支援は仙台市地域生活支援事業の一つであり、サービス費用(事業所の収入)は時間毎に設定されています。専任のヘルパーがサービス提供をするとサービス費用より人件費が上回ってしまうこともあります。ご利用希望は土日祝日が多く、ヘルパー不足のため、お断りや別日への変更のご協力をお願いすることも多い状況です。

研修報告にありますガイドヘルパーとは、別名「移動介護従事者」と呼ばれ、外出の支援のみ行うことができるヘルパーで、仙台市の場合には16時間の講習を受けることで資格が取得できます。当法人では介護職員初任者研修を開講しておりますが、受講時間130時間が一つの壁となり、学生の参加が少ない状況です。学生やたくさんの方にしょうがいのある方と関わっていただけるガイドヘルパーはとても魅力的だと思います。



当法人でも「NPO 法人み・らいず2」の取り組みを参考にさせていただき、ヘルパーの楽しさ、役割などを多くの人に伝え、しょうがいのある方の住み慣れた地域での暮らしを支える支援者を増やす取り組みを考えていこうと思います。

(ぺんたす 今野)



ちょこっとコラム～支援について考える～

「にがてなもの、こだわり」



皆さんは苦手なものや、こだわりはありますか？私は高い所がダメで、ジェットコースターや観覧車が苦手です。こだわりも色々持っています。

利用者さんの中には、小さな子どもさんの声や、争っているような声、大きな音などが苦手な方もいます。必ずこの場所に行ったら、これをしなければいけないといったこだわりを持っている方もいます。それが急に変わると気持ちが落ち着かなくなったり、その気持ちをうまく表現できず自傷や他害、暴言などの行動に繋がることもあるので、配慮した支援が必要となります。

外出の支援で大事にしている事は、事故や怪我無く楽しんで帰っていただくことです。当たり前なことだと思われるかもしれませんが、事前に準備をしておかなければできないことだと感じています。

しょうがいのある方の支援を始めた頃には自分の焦りが利用者さんに伝わり、うまく支援できなかったことがありました。その経験から、利用時間の中で利用される方が満足するためにはどうすればいいかを考えました。まず私の気持ちに余裕がなければいけないと考え、支援時間終了の予定時間に間に合う最終の交通機関の時間を調べるようになりました。そうすると心の余裕が生まれ、利用者さんから突然希望を話されても、今日の時間内で行けるかどうか本人とゆったりと話しあい、決めることができるようになりました。希望が叶って満足そうに帰宅する利用者さんと、その様子を見て笑顔になっているご家族の様子を見てみると、対応は間違っていなかったと感じています。これからもこの気持ちを忘れずに支援していけたらと思います。

(ぺんたす 工藤)

職員随想

第15弾

すてっぴ・はうす 永沼佳子

非常勤で入職して1年半が経とうとしています。つどいの家の職員はベテランが多数なのですが、私は「見た目もピッチピチの新人」です。(笑)今回はそんな私の福祉サービスのルーツをお話してみたいと思います。私の好きなことは「人を楽しませること」です。勿論、私自身も楽しめます。これは記憶を辿っても物心ついた頃からの私の持って生まれたものかもしれないです。そのせいか今までは接客業や営業職ばかりが自分に合っていると信じて「福祉」の仕事を全く考えた事ありませんでした。

子育てしている中で自分の時間ができた頃、「子育てを活かしませんか？」のキャッチフレーズに惹かれ、当時の自宅近くで開設された放課後等デイサービスに見学体験に行き、放デイの子供達と楽しいひと時を過ごし、「もう帰っちゃうの？また来る？」と泣きながら言ってくれた子供達のこの一言で、初めて「福祉サービス」に飛び込んだのが私のルーツです。私の子育てにも大きく影響し、子供の成長一つ一つに感謝していると、わが子は今やよき理解者になり、私の夢や目標をととも応援してくれています。

主人の転勤で一度は福祉から離れてしまったものの、今度は我が子に背中を押され「楽しませ、楽しむ」福祉サービスの現場に戻ってきましたし、この仕事の楽しさを教えてくれた放課後等デイサービスの仕事にも携わっています。

たくさんのお支えをいただき、今日も存分に楽しんでおります。



入浴リフトを設置しました。



すてっぴ・はうすでは宿泊の際にお風呂をご利用いただいておりますが、この度、仙台市の助成を受け、入浴リフトを設置いたしました。

介助者の腰などへの負担を軽減するのはもちろんですが、利用される方もより安心して入浴ができるようになりました。

脱衣所から浴室、浴槽まで移動し、リフトに乗ったまま湯舟に入れます。体を洗う時にはリフトが固定できるので安全に洗う事ができ、浴槽内での姿勢も安定するので、ゆっくりとお湯に浸かっていただけます。

(すてっぴ・はうす 高橋)



ご寄付をいただきました。

仙台建設業協会様よりご寄付をいただきました。

いただいた寄付金で、すてっぴ・はうすを利用される方が楽しめるDVDとCDをたくさん購入させていただきました。様々な年代の方々が利用されていますが、ディズニーアニメや日本昔話、おかあさんといっしょなどは大人気です。

おやつを食べながら映画鑑賞をしたり、気に入ったシーンを繰り返し見たり、音楽に合わせて踊ったり、歌ったり。思い思いに楽しんでいます。ありがとうございました。

(事務 山口)



異動者・退職者

異動のお知らせ

ぺんたす 大内卓也
つどいの家・コペルとグループホーム
(さくらはうす)の兼務になります

退職のお知らせ

介護人 小塚悠司 久保美紀
鎌田祐実
学校を卒業してそれぞれの道へ



法人ホームページ

編集後記

団子も1本140円・・・物価高ですね。大手企業の賃上げは報道されていますが、物価高でとくに困っているのは所得が少ない人ですよ。福祉職員がベンツを買う日はくるのかなあ。

ぺんたす 小原